

うれしかった、今年のイースター

醍醐の山腹に散りばめられた、淡いさくらの彩り  
木々の間から呼びかけ合う、心地よい小鳥のさえずり  
今年も迎えた、静かな喜びのイースター

ところが「復活祭」と言葉を変えると、がぜん難しい印象に  
死者がなぜ？ とか、現代では…とか。本当はもっとシンプルなのに

「イースターの話、してくれませんか？」 そう頼まれて  
4月9日木曜日、幼児のお部屋に遊び向かった  
でも、子どもたちに難しい死者の復活をどう話せばいいの？  
あれこれ内容を考えたが、妙案は見つからず  
最後、覚悟を決めた。「聖書をそのまま語ればいいのだ！」

何も悪くないのに人々に裏切られ、棄てられ  
十字架にかかったイエスさま  
組み合わせた二本の木に釘打たれ、やがて息絶え  
み体を納めた墓は大きな石でふさがれる  
ささげる香料を手に、悲しむマリアたち  
だが見上げると、大きな石は転がっていた  
墓穴は空っぽ。イエスの遺体は見当たらない  
「あの方はよみがえったのだ！」。天使は告げる  
まだ涙かわかぬまま、笑顔をうかべる女たち

と、ここまで話して子どもたちの様子を見る  
「わあ、よかった。イエスさまはよみがえったんだ！」  
お話をそのまま受け止め、泣きそうになったり、笑顔になったり  
心からお話を喜ぶことのできる子どもたちの素晴らしさ  
うれしいイースター！

(つくし保育園園長 つだかずお)

追記 4月9日はイエスが十字架の直前、弟子たちの足を洗った木曜日。  
緊急事態宣言がでる前だったので、多くの子どもたちと主の復活を喜び  
心あたたまる小さな礼拝ができたこと、神さまに感謝です。